

山川登美子への旅

都留文科大学初等教育学科教授 鳥居明雄

山川登美子（明治十二年〜四十二年）は、若狭小浜の明星派閥秀歌人として、今もなおその名をとどめている。ことあるごとに与謝野晶子との対比として語り継がれてきた彼女ではあるが、しかし、近年、全集の絶版入手不能という事態が象徴しているように、次第に人々の記憶のなかに置き去りにされはじめているのではないかとの思いは、はたして筆者だけが抱いているものなのだろうか。

筆者は、これまで我が国の古典演劇である能にながら関心をよせてきたのであるが、最近ある奇しき機縁によって彼女の歌に接しえたのであった。そして、これはまさしく厳肅な意味での「出会い」にはかならない経験として、筆者のこのころの底に呼吸をしばじてしまっている。今はまだ、その細かいひだをこぼしに移し変えることの困難さに直面するばかりで、性急な物言いはこの場においてもとうていなじむものではない。しかし、あえてその「出会い」の素描を以下で「こころみる」ことにしたい。

そこで、たとえば、与謝野晶子の有名な歌として次のようなものがある。

下京や紅屋が門をくぐりたる
男かわゆし春の夜の月

極彩色の情緒がまばゆいばかりであり、当時の歌壇への晶子の衝撃的な登場を彷彿とさせるにふさわしい。一方、これとは一見対比的にみえる次のようなのびのびとした歌もある。戸をひけばにこやかにして君います四月の山の木の花のさま

作ろうという行為を感じさせない秀歌であるが、しかし、前者の歌に通じる官能の余韻は残されている。前者に色濃い官能と物語性は、最晩年をわずかにのぞいては終生一貫するところではなかったのか、というのが晶子に対する筆者のいささか乱暴に過ぎる粗い感想である。

こうした晶子の対比として、山川登美子のありかたは一言で尽くせるほど単純ではないと思われるのだが、ともかく、さきほどの晶子の官能と物語性とは対極をなしていると感じられる。たとえば、やはりあの代表作しらすたまの数珠屋町とはいづかたぞ下京こえて人に問はまし

ここで筆者の感性を率直に言おうと、晶子がみせていることばの構築性によほど近い。それが素直なところである。しかし、あえてと今は言っておきたい。反官能、反物語性にとさらに言いたると一つ穴のむじなになってしまっておそれがあるのだが、ともかく山川登美子におけることば

の発せられる場とそこからつむぎだされることばのありかたは、今の筆者にとつてそれこそ胸にグサリとくするものがある。

折口信夫が述べているように、「しらすたまの」の歌はなんの理由もない歌である。ただ道を歩む身体からふとこぼれたかのようなことばのありかたである。こういうことばのありかたは、一見晶子の作と思わせてやはり山川登美子のもので納得できる次のような歌にも通じるものであるようだ。

かみ長き処女と生まれ白百合に額を伏せつつものをこそ思へ

この「額を伏せつつ」というところに、折口は女流作短歌の命運を鋭くみぬいていた（『女流の歌を閉塞したもの』）。折口の評言はまことに鋭く厳しいものがある、女流短歌の閉塞はほかならぬ晶子にみている。そして、女流短歌の真の水脈を、短命であった山川登美子を再三再四惜しむことをはばからないかたちで、彼女に託しているのである。このまことに大胆不敵な発言は、すでに晶子の死後十年に満たない昭和二十六年に発せられている。

折口のいう真の意味での女流短歌のありかたとはどういふものなのか、そして本質的に言って、ことばというものはどういふ場から真に発せられるものなのか、山川登美子に添う筆者の語りかけの旅は今永遠の伴侶を得て始まろうとしている。

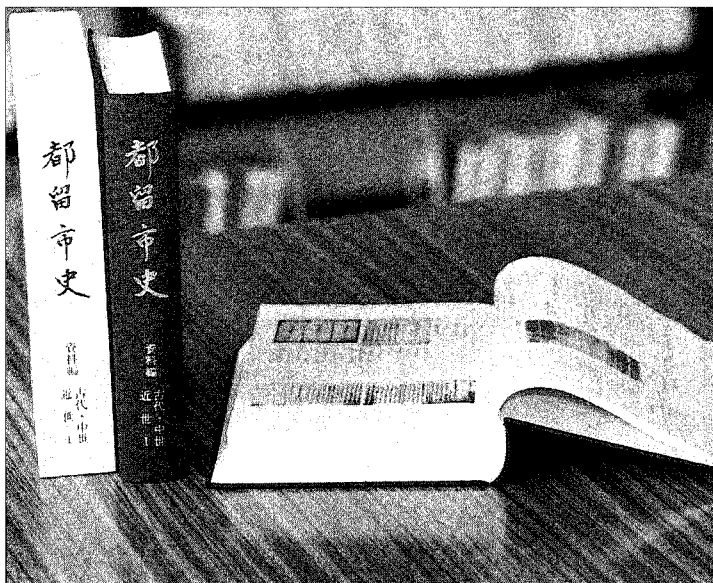
都留市史資料編

「古代・中世・近世I」発刊

都留市史の資料編として、「地史・考古」、「都留郡村絵図・村明細帳集」、「民家・民俗」に続いて、このたび「古代・中世・近世I」を發刊しました。

本資料編は、古代から江戸時代中期までの史料を中心に収録したもので、「古代・中世」では古代から戦国期までを対象に、都留郡の成立や小山田氏の郡内支配について、明らかにするために県内外から関係史料を収録しました。

また、「近世I」では、江戸時代中期までを対象に、歴代藩主や城下町のような、村の生活やできごと等について村々に残された史料を調査・整理して収録しています。これらの史料は、郡内の政治・経済・文化の中心として繁栄してきた都留市の歴史を知る上で、欠かせないものです。



体裁 B5版、上製本函入
頒布価格 859ページ、表紙布張り
5000円（宅配の場合、送料1000円）

申込方法 購入申込書に必要事項を記入の上、郵送または、最寄りのコミュニティセンターならびに市史編集室まで申し込みください。

問合せ 中央三一八一
文化会館内 市史編集室
☎(43)1321 内線57